

議事（４） 山口市幼児教育・保育サービス検討懇話会について(報告)

議事（１）「幼稚園、保育園入園児等の推移」、議事（２）「区域ごとの配置計画」について、御意見はありませんでした。

議事（３）「公立園の方向性」についての説明・御意見は以下のとおりです。

【事務局】

・未就学児の減少や保護者の就労状況の変化等に伴い、幼稚園への入所者は今後も減少傾向が続く見込み。また、これまで増加していた保育園への入所者についても、長期的にみると今後は減少傾向が続く見込み。

・幼稚園への入所者が減少する中、特に公立幼稚園への入所者が大幅に減少。

・公立幼稚園は、幼稚園教育要領や山口市教育振興計画に沿った教育を忠実に実践し、少人数ではあるものの目の行き届いた教育を行うとともに、支援を要する子どもの受入れを行ってきた。しかしながら、幼児教育については、一定規模の集団の中で育ち、学ぶ環境が必要であることから、これまで公立幼稚園が担ってきた役割を今後も継続しつつ、今後の運営についても検討する。

・公立保育園については、老朽化により、今後、約10年から20年の間に約6割の園が施設の更新時期を迎えることから、平成22年6月に策定した「山口市公立保育園の民営化基本方針」に示した公立保育園の役割を踏まえて、第三期の計画期間中に施設の統廃合や再整備を検討する。

【御意見】

・「今後も園児数が減少する中、新たな施設の整備をする必要があるのか。」「公立幼稚園の園児数の減少は顕著であり、ニーズも含めて本当に継続することが必要なのか。継続ありきで考えるよりも、未来を見据えた対応をすべきではないか。」

【事務局】

「当面は子どもの数が減少し、施設数も減らしていく中で、多額の費用をかけてまで整備を行うことは考えていない。公立幼稚園については、現状のまま、残していくことは難しいと考えており、どういう形がよいのか、皆様の御意見を踏まえながら、検討したい。」

議事（４）「教育・保育の供給過剰地域における認定こども園移行の考え方」についての説明・御意見は以下のとおりです。

【事務局】

・「認定こども園は、保護者の就労の有無にかかわらず、幼児教育・保育を一体的に受けられるという特徴をいかすため、幼児教育・保育ニーズが充足している区域においても、必要最小限の範囲で、利用定員を設定できる」という方針を考えている。

- ・「認定こども園移行の際の利用定員数」について、国の通知や例示、他市の状況等を踏まえ、検討懇話会において利用定員数の設定方法などについて協議し、子ども子育て会議に諮問する。
- ・第三期計画に認定こども園の方針や設置目標数等を記載する。
- ・認定こども園への移行時期については、令和7年度以降、第三期計画期間中に施設ごとに協議が整い次第、移行する。
- ・保育所が認定こども園に移行する際の類型は、平成30年の保育所保育指針の改訂により、3歳以上児の幼児教育に係る内容等の共通化が図られたことから、1年目からの幼保連携型への移行も可能。

【御意見】

- ・「保育園がこども園に移行する場合は、1年目からの幼保連携型への移行も可能とされるが、幼稚園が幼保連携型に移行する場合は、3年間の経過措置を必要とする市独自のルールを設定された、その考え方についてお聞きしたい。」
- ・「保育園が認定こども園に移行する場合は、保育所型よりも幼保連携型になるほうが、質の向上も含めて良いのではないか。」

【事務局】

- ・「市の保育協会において、乳幼児保育の在り方について協議していただいた内容等を踏まえ、本市においては、0歳から2歳までの保育をしたことのない幼稚園が認定こども園になる場合は、安全性を考慮し、3年間幼稚園型としてやっていただく、独自のルールを設けている。」
- ・「利用定員数の考え方については、様々な考え方があるため、皆様の御意見を聞きながら、供給過剰地域における1号認定こどもの定員の目安をつくりたい。懇話会の中で大きい方針を決め、実際に進める場合は、区域ごとに個別に協議していきたい。」
- ・「新規に1号認定こどもも受け入れたいとの保育園側の御意見があることから、全ての園で受け入れるのか、区域によって考えるのか、保育園等の御意見も聞きながら決めていきたい。」

議事（5）「その他」についての御意見は以下のとおりです。

【御意見】

- ・「保育や教育に携わる方の思いは、私立や公立で違うということはないので、未就学児が減少する中、このまま公立保育園・幼稚園を維持し続けるよりは、民間に移管するほうが良いのではないかと。市として20年後、30年後の保育サービスを考える中、山口市としての教育の特色を打ち出していくよりも、保育事業者のそれぞれの色を、もう少し取り入れて、進めていけたらよいのではないかと。」
- ・「今後は、私立、公立関係なく、子どもを中心に考え、どのようにして保護者から選ばれるかということも考えていかないといけないのではないかと。保育士確保のために、何らかの手立てが必要ではないかと。」